中国の友達と感じたまま③

中華人民共和国を〝友好訪問〟して

志田 保

人民公社のもとに自給生活――＊

西安での二日間の滞在を終えた一行は、二十六日の午後空路上海へ向った。

上海は、人口一千万人余という中国最大、いや世界一にも匹敵する規模の大きい都市で、北京、天津とともに特別市に指定されている。揚子江流域を後背地とする華中の経済的な心臓部でもあり、紡績業などを中心とした近代工業が発達している。上海県に属する各県は、いずれも農村地帯だが、水稲、菜種のほか、果樹栽培や乳牛、豚などの飼育も盛んだ。

上海では、上海県馬橋人民公社というところを訪問し、精力的に進める各種事業から市民生活にいたるまで、多方面にわたって話しを聞き参観した。

中国独特の生産組織――人民公社は、北京市などの革命委員会とほぼ同じように、政治、教育などのすべてを処理する機関で、総合経済の発展をはかりながら、農工業の近代化と食糧の自給確立をめざしている。

馬橋人民公社は、人口が約三万五千余、行政区域の大半は農耕地で、すべて自給生活を営んでいる。現在では農業の機械化を進めているようで、機械化による余剰労働力は工業生産へと振り向けている。中でも木工とか鉄工、船会社など、工業等への進出はかなりあり、また水郷地帯の一部にあるだけに、セメントによる造船が活発であった。この船は、阿賀野川などで見られる砂利船ほどの大きさしかないが、中国では木材が少ないことや、修理が簡単なこともあって、セメント船の需用は大きく、農産物や資材の運搬などはほとんどセメント船による水上搬送をとっていた。

大歓迎してくれた団地の人たち

肥えた農地と食糧増産に励む国民――＊

以前の中国大陸は、全土にわたって常時河川のはんらんや日照り続きに見舞われ、洪水やかんばつの被害を受けていたというが、ここ上海県でも例外ではなかった。農業生産は底をつき、農民の生活は極度の窮乏をしいられていたようだ。しかし、この天災と戦いながらも、現在では人民公社の指導のもとに、肥えた農地と食糧増産に、かいがいしく励む農民たちには、この上もない明るさが感じられた。

中国の進める〝国づくり〟はいわゆる〝国を愛し集団を愛する〟ことにほかならない。ここから出発した社会主義大農業の建設は《農業を基礎にして工業を導き手とする》毛思想に象徴されるように、国をあげての食糧増産につらぬかれており、豊かな国力と国民生活にある。

孫平化氏（中日友好協会秘書長）との懇談のおり「食糧自給や資力の貯えがなってもわれわれの技術そのものはまだまだですよ」と謙虚に話しておられたが、実際、食糧や日用生活品などの資力の貯えは、ずいぶん豊富との感があった。しかし、機械化が少ないことや、いまだ牛馬に頼る農耕もありで、日本に比べた農村技術は、いま一歩のところのように思えた。

勤労者住宅は近代的アパートに――＊

一行は、宿舎から車で四十分ほど離れた農村を訪ねた。そこは、農業や工業にたずさわる人たちのいわゆる勤労者のまちで、住民たちは大変な歓迎をしてくれた。農村といっても、近代的な四階建てアパートが建ち並ぶ団地なのである。

多くの年輩の方なら聞き知っていると思うが、勤労者というと〝掘立小屋〟の住宅がスラム街に集まっているなど、以前の上海のまちの国民生活は、暗いイメージが強くあったように思う。が、今ではこれらの大半が整理され、掘立小屋の住民たちも優先的にアパートへの入居が認められるなど住宅の増設に本腰を入れている。夫婦には優先的に二部屋の割当てがあり、子どもや年寄りがいれば、また部屋数も増してもらえるとか…。

現地である主婦に、農業や日常生活のことについて二、三たずねてみたところ、夫は工場へ、妻は公社の農作業に勤務という家庭が多くなり、この団地では「お母さん農業」が大きな比重を占めているとのことだった。

中国での労働は〝点数制〟がとられているため、働きいかんによっては〝能率給〟があり、収入も多くなる。共同作業の成果があがるゆえんなのだろう。しかも、現在の農業自体、昨年来の「大寒に学べ、つづけ」の感で、機械化が進んできているとはいえ、国民一体となってさらに高い生産性を見極めなおしているようだ。

お買物、ご用命は市内で

MEN'S LADY'S フォーマルウェアー
クールなサマー6ツ釦 ダブル 50,000円
オールシーズン6ツ釦 ダブル 46,000円から52,000円
ヤングアダルト6ツ釦 ダブル 52,000円
ヤングスリーピース 43,000円
男の服 いつちだ 本町2 (4)0648
ファッション MIMI 本町2 (4)0658

モントリオール オリンピックを
鮮明な画面で見よう
新町2丁目
田村電機商会
TEL 2-0653

自信を持って公開したハリ麻酔医術――＊

上海では、大きな病院と上海港も訪ねてみた。

病院は華山病院といって三百人くらいの医師団と、三百五十人ほどの看護婦が働いていた。そこでは〝ハリ麻酔〟によって実際に胃の手術をしているところを、医長の案内で二階のガラスの窓越しから見せてもらった。

胃の手術といえば大変な手術だが、これがまた局部だけの〝ハリ麻酔〟である。だから患者は、手術中にあっても意識はハッキリしており、苦痛そうな顔は少しも見られない。手術直後に案内の医長が手術担当医を介し、窓越しから無線で患者と話しもしていた。

世界が注目しているハリ麻酔法は、一九五八年に成功したといわれ、「日本（新潟大学）から勉強に来ている人もいます」ともいっていた。この医術、確かに研究されつくしているようで、自信を持っているからこその公開なのだろう。

威容を誇る上海工業展覧館

魯迅先生の故居もたずねて――＊

上海港は、昔、世界の列強国に外国資本の中国進出の根拠地とされたことはご承知のとおりと思う。上海港では、上海港務局員の案内で「第九荷役作業区」を参観した。またまた上海港には「益陽号」という中国船が停泊していて、一行はそれに乗船させてもらい、船長から中国の造船状況なども聞くことができた。

造船技術は、日本のそれと同じように高く、世界の需用もまかなえるほどに発達しているとか。そして船舶による鉄鉱石などの輸出には力を入れ、外資の獲得に一役かっているともいっていた。

上海では、このほか魯迅先生の故居や工業展覧館、少年宮なども訪ねる機会を得、幸せだった。

今はなき魯迅先生は、日本の大学に学ばれたことのある日本とはゆかりの深い人で、偉大な文学者、革命家、思想家として広く知られた人である。活動家だった毛主席自身、最も尊敬した人であり、その思想に、はかり知れない大きな影響を受けたといわれているだけに、先生の故居は整備がいき届いていた。

市長雑感 70

雷サマとアベック雨は要注意

ふだん、気象図など見向きもしない私だが、ちょっと大雨がきたりすると、素人考えながら梅雨前線や前線上の低気圧などひどく気にかかり、七月ともなると一日も早い〝梅雨明け宣言〟をいつも待ちわびる。

よく「雷サマが鳴れば梅雨が明ける」という言葉を耳にする。じめじめと陰気に降り続く梅雨に、雷サマがかんしゃく玉を爆発させてゴロゴロと一発、怒鳴りつける――といった言い伝えなのだろうが、ところがどうしてどうして雷の伴った雨がやってくると、梅雨などというなまやさしいものではなく、局地的な豪雨の恐れは十分で、要注意とされている。

四十一年、四十二年と雷を伴った強い雨が二年続けて下越地区を襲い、新津市でも全域にわたって手痛い被害をこうむったことをご記憶だろうか。中でも四十一年の水害は、当市はじまって以来という雨量を記録し、それも梅雨明けを前にしたときのことである。たまたま県議在職にあった私は、各地の防災・被害調査などに、それこそくたくたになるほど駆け回ったことを今でもはっきり覚えている。腰まで水につかって家財道具の持出しに懸命な被災者たち、土のう積みや危険地域の避難指令などに全力をあげて防災に当たっていた人たち、そしてたき出しにかいがいしく働いたお母さんたち、みんなが水害と戦いながらも、その猛威をいやというほど味わったに違いない。

幸いにしてその後は、当時のような豪雨の急襲から逃れられてはいるものの、私自身そのの対策はいつの時でも忘れまいと諸施設の改善に努力をし、心の準備も怠っていない。これからがシーズンの異常降雨時に備えては、水害やガケ崩れなどの警戒区域の巡視・点検、既存施設のチェックなど、防災会議を通した防災対策の計画的な実施をはかっている。しかし、準備・対策はこれでいいということは決してないし、またチームワークや各位の協力なくしても効果は上がらない。といっても災害に対する知識と十分な対処策があれば大きな備えだし、あくまで平素忘れてはならない大切なことだと思う。

梅雨が明けると、こんどはいよいよ夏本番、毎日つよい太陽が照りつける。楽しい夏休みプランも結構だが、夏には決まってつきものの食べすぎ、飲みすぎ、食中毒には十分心していただきたい。

志田保

お買物、ご用命は市内で

〝夏の別天地〟
3階ビアホールで冷えたビア樽の味を心ゆくまで楽しんで下さい。
新味割烹 食堂 春雨
新津市本町一（駅前）
☎(2)1600㈹

中古車 特売中!!
民間車検場・保険・板金・塗装
㈱遠山商会自動車部
新津市善道町2丁目